

《担当者名》教授 / 泉 剛

教授 / 遠藤 泰 教授 / 飯塚 健治 教授 / 柳川 芳毅 教授 / 西 剛秀

准教授 / 大橋 敦子 准教授 / 町田 拓自 特別講師 / 大川原 淳 (大川原脳神経外科病院)

【概要】

これまで学んだ医薬品の薬理作用の知識を基に、疾患の病態を考慮して選択すべき薬物治療について臨床的観点から考察を加える。

1. 薬物の人体への作用を整理して、疾患治療における有用性を知る。
2. 臨床での薬物治療という観点から、病態との関係に基づいた合理的な医薬品の使用法を学ぶ。
3. 医薬品の薬理作用と主な副作用を考慮して、各種疾患に対する治療効果を学ぶ。
4. 自動調剤システムの導入による薬剤師業務の変化について学ぶ。

【学修目標】

臨床的に頻度の高い疾患について、薬理学的根拠に基づいた合理的な薬物療法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	悪性腫瘍の薬物治療 抗悪性腫瘍薬の副作用と支持療法 資料を配布する。	悪性腫瘍疾患の薬物療法について説明できる。 抗悪性腫瘍薬の副作用と支持療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- -1~13	遠藤 泰
2	抗菌薬による薬物療法 教科書7 : p130~147 資料を配布する。	細菌感染症を分類し適切な抗菌薬を選択できる。 抗菌薬を作用機序に基づき分類できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)-	柳川 芳毅
3	呼吸器疾患の病態と薬物治療 教科書3 : p110~125 教科書5 : p88~222 資料を配布する。	呼吸器疾患の薬物療法について説明できる。 循環器疾患の薬物療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1~5、E2-(4)- -1~4、E1-(3)-	飯塚 健治
4	技術は未来の医療を救えるか? ロボット調剤システムの導入による 薬剤師業務のサポート 資料を配布する。	人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組み と規制について説明できる。 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性 について説明できる 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 B-(1)-3、F-(1)- -2	大川原 淳 泉 剛
5	代謝系・内分泌系疾患の病態と薬物 治療 資料を配布する。	代謝系疾患の薬物療法について説明できる。 内分泌系疾患の薬物療法について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(5)- -1~3、E2-(5)- -1~5	大橋 敦子
6	血液・造血管系疾患の病態と薬物治 療 教科書1 : p94~124 資料を配布する。	血液・造血管系疾患の薬物療法について説明でき る。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1~5	町田 拓自
7 { 8	抗菌薬の化学構造 教科書9 : p249~280	抗菌薬(-ラクタム系、ニューキノロン系、マクロ ライド系、テトラサイクリン系、アミノグリコシド系 抗菌薬)の構造を説明できる。 抗菌薬の作用機序を説明できる。	西 剛秀

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		薬物の基礎構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C4-(3)- -4,5、E2-(7)- -1、E2-(7)- -1	
9 ） 10	抗悪性腫瘍薬の化学構造 教科書9：p315～340	抗悪性腫瘍薬(分子標的薬、代謝拮抗薬、白金化合物等)の構造を説明できる。 抗悪性腫瘍薬の作用機序を説明できる。 薬物の基礎構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 C4-(3)- -1、C4-(3)- -1～3、E2-(7)- -1～3、 E2-(7)- -1	西 剛秀

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（100%）で合否の判定を行う。

定期試験後は、試験問題の解答と解説を、「遠隔授業ポータルサイト（g-drive）」にアップするので、学修に活用すること。

【教科書】

- 1 「薬物治療学 改訂8版」 南山堂
- 2 「病気がみえる Vol.1」 Medic Media
- 3 「病気がみえる Vol.2」 Medic Media
- 4 「病気がみえる Vol.3」 Medic Media
- 5 「病気がみえる Vol.4」 Medic Media
- 6 「病気がみえる Vol.5」 Medic Media
- 7 「病気がみえる Vol.6」 Medic Media
- 8 「病気がみえる Vol.7」 Medic Media
- 9 「医薬品構造化学」 前川智弘 著 京都廣川書店

【参考書】

- 「疾患と治療薬 医師・薬剤師のためのマニュアル」 南江堂
「疾病の病態と薬物治療」 廣川書店

【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。

【学修の準備】

授業内容について小テストを施行することがあるので、毎回復習しておくこと。小テストの解答についての解説は授業時間内行う。

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと（50分）。

復習は、プリント、講義メモ並びに教科書、参考図書を活用して学修を深めること（50分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

C4 生体分子・医薬品の化学による理解

(3) 医薬品の化学構造と性質、作用

【 医薬品と生体分子の相互作用】 -1

【 医薬品の化学構造に基づく性質】 -1,2

【 医薬品のコンポーネント】 -1～3

【 酵素に作用する医薬品の構造と性質】 -1～6

E2 薬理・病態・薬物治療

(1) 神経系の疾患と薬

【 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】 -3～10

(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬

【 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】 -1,3,5,8

【 骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】 -1～4

(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

【 循環器系疾患の薬、病態、治療】 -1～5

- 【 血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】-1~5
- 【 泌尿器系・生殖器系疾患の薬、病態、治療】-2~8
- (4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬
 - 【 呼吸器系疾患の薬、病態、治療】-1~3
 - 【 消化器系疾患の薬、病態、治療】-1~8
- (5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬
 - 【 代謝系疾患の薬、病態、治療】-1~3
 - 【 内分泌系疾患の薬、病態、治療】-1~5
- (6) 感覚器・皮膚の疾患と薬
 - 【 眼疾患の薬、病態、治療】-1~3
 - 【 耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】-1,2
 - 【 皮膚疾患の薬、病態、治療】-1~4
- (7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬
 - 【 細菌感染症の薬、病態、治療】-2,7
 - 【 ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】-3,5
 - 【 真菌感染症の薬、病態、治療】-2
 - 【 原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】-2
 - 【 悪性腫瘍】-1~3
 - 【 悪性腫瘍の薬、病態、治療】-1~13

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

泉 剛（医師）、遠藤 泰（薬剤師）、飯塚 健治（医師）、大橋 敦子（獣医師）、町田 拓自（薬剤師）、柳川 芳毅（製薬企業において創薬研究に従事）、西 剛秀（製薬企業において創薬研究に従事）、大川原 淳（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、獣医師、薬剤師としての実務経験に基づいて、臨床に即した臨床薬理の講義を行う。創薬に携わった実務経験を活かし、実践的な教育を行う。